

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条1丁目3番1号 (電話) 011-683-8817		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年1月29日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月26日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	3名	要介護2	6名			
要介護3	7名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0			
年齢	平均	86.3歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌立花病院 さとう歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々した敷地内に日当たりの良い場所に建設されている。建物は様々な工夫があり、ゆったりとして窓からの景観は四季折々の自然が満喫できる。利用者の多くは法人内の病院からの入居であり、職員は法人内の異動による配置で利用者とは比較的馴染みの関係が保たれ落ち着いた生活が続けられている。隣接する病院の多目的ホールで日常的に様々なプログラムが用意され、利用者は外出気分に参加し、楽しみとなっている。協力病院が隣にあり、医師である理事長は毎朝事業所を訪問し健康管理を行ない、利用者や家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 権利、義務の明示については重要事項説明書の中に記載されている。チームケアのための会議は毎朝の申し送り時、さらに月1回会議をしている。欠席者は記録の確認をしている。緊急時の手当はルールが徹底し判断を正しくしている。研修は法人合同で年に数回テーマを決めて実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、職員全員で検討してから記載し、具体的なケアの良質を求めて努力をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の会場は隣の病院内にあり、ゆったりとして会議に臨むことができる。外部評価の報告や事業所の目指す目標など話し合っている。同一法人内のグループホームと連携を取り、合同で開催し、地域の理解が深まってきた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会は多くはないが、面会記録簿を作り話し合われた内容を記載している。又、家族がきた時は声掛けをして、少しでも要望を聴き、運営に反映するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会行事の参加(できる範囲で無理しない)近隣保育園や小学校との交流が軌道にのり、運動会参加や資源回収への協力など地域住民と交流を深めている。法人全体で積極的に働き掛けをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「利用者の穏やかな生活を家庭的に・・・」と掲げられ事業所内に掲示されているが、地域密着型サービスの理念が含まれていない。	○	新しくグループホームに求められる地域密着型サービスの理念を文章化して盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の共有として、各自名札の裏面に理念を記載して所持し、絶えず振り返りをして理念の具体化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事の参加、近隣保育園や小学校と交流があり、運動会参加や資源回収への協力など地域住民と交流することになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年外部評価を実施し、改善に向けて、職員は取り組みをしている。今回も自己評価を全員で検討して記載し、具体的なケアの良質を目指して努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は病院から会場の提供があり、2ヵ月毎に開催している。同一法人内の事業所と近隣なので会議を合同とした。記録も整備され意見をサービスに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者会議に出席し、行政からの通達や報告は決められた指示に従い、行き来する機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所のユニットで利用者の日頃の様子が分かるような「たより」を発行して家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は多くはないが、面会記録簿を作成し、話し合われた内容を記載している。「苦情箱」を設置しているが利用はない。細かい意見でも運営に反映させるように支援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人内の異動による配置換えが多く馴染みの関係作りが容易である。交替時は前任者と後任者と引き継ぎがスムーズにいくように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催で合同の職員研修は年に2回ほど開催されて学ぶ機会はある。法人外の研修の参加は管理者が多く、職員の参加が見られない。	○	外部研修の機会に職員の参加が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとは日常的に行事を合同で実施するなど交流がある。しかし、ほかのグループホームとは交流の機会はない。	○	同一法人から周りに目を伸ばし、ほかのグループホームと交流することが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くは隣の病院やケアハウスから入所して来るが、本人と家族が事業所と話し合いを持ち、納得のうえで、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに協働作業をすることで、ともに過ごす関係を作り上げている。畑作業、掃除、洗濯、食事の後片付けなどを喜怒哀楽をともにしながら利用者と職員と生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が困難な利用者とは、過去の経歴や過ごし方など本人本位に把握して支援している。何事も利用者の意思を確認してサービス提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所の中で本人の介護計画にもとづいて職員は連携を取りながらサービスを提供している。医師や薬剤士、栄養士とも意見交換をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月個別に介護計画と生活を吟味し、必要に応じて見直しをしている。原則として6ヵ月で介護計画を新しく作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎週のように、病院にある多目的ホールで開催されるカラオケや音楽の会など楽しいプログラムに参加を支援している。また、個別の外出支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体は医療法人で隣の病院が医療面の支援を怠りなくする体制があり、利用者と家族の安心につながっている。また、職員の中に看護師が常勤している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、本人と家族、関係者と話し合いをして個別に方針を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への係わりは節度をもってあたり、言葉掛けなど丁寧にし、個人情報の取り扱いも慎重にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として日常的に体操などのプログラムを用意しているが、参加は自由で一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の同一法人グループホームと兼務で栄養士を配置している。食事が利用者にとって楽しみとなるように工夫と努力が見られる。食前、食後に一部の利用者は協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態に合わせて概ね週2回、入浴をしている。介護度の高い利用者には病院の浴室利用も考慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で利用者ができる役割を見出して、一人ひとりに役割を与え、充実感を持つように支援している。また、趣味の活動も個別に対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所から渡り廊下で隣の病院内多目的ホールへ日常的に行事や趣味活動のため、外出となる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの入り口は開閉が分かる工夫を施し、夜間のみ玄関を施錠している。敷地が広いので見通しが良い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力による避難訓練を実施している。緊急のマニュアルを作成し緊急連絡網は分かりやすい場所に貼ってある。また、近隣の病院やケアハウスからの応援体制も整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、栄養士の配置でバランスや摂取量などの把握はできている。また、一人ひとりにあった食べやすい配慮が行き届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からの眺めは良く、さらに四季折々の様子が一望でき、利用者も職員も癒される場所であり、ゆったりとしたソファが用意されてくつろぎの場所にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは広く、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、利用者一人ひとりの安心の自室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。